



シリーズ

埼玉の隠れた銘品百選

⑥⑥

お芋グラッセ妹小町 (大木製菓有限公司)



お芋グラッセ 妹小町

2025年12月、上尾の住宅街にシックな外観のスイーツ店がリニューアルオープンした。ここは老舗和菓子店「四季彩工房おおき」。川越で展開する「芋屋初代仙次郎」も一緒に、カフェを併設し、お芋スイーツやソフトクリームも楽しめる。

「大木製菓有限公司」は昭和9年(1934年)の創業。初代・大木仙次郎は上尾の人で、芋菓子を作って関東一円に卸した。二代・幸一さんは現在に続く洗練された芋菓子確立し、三代・秀隆さんは芋菓子継承しつつ和菓子事業を上げた。現在の浩一社長は、初代から直系の四代目。社会人のスタートは都内フレンチレストランだったが、「和菓子作りは人の一生の節目に関わる良い仕事」との思いを次第に深め、20代半ばで家業に入った。以来、和・洋菓子に「芋」というプラスαを加えることを強味に商品を展開、2010年に社長を継いだ。

四季彩工房おおきの看板商品、「お芋グラッセ 妹小町」は、二代・幸一さんの時代にできて以来、60～70年もの間何も変えていない。北海道産の甜菜糖^{テンサイ}の上品な甘さと、紅高系芋のほくほくした食感、芋の選別、煮込み、蜜付け、2回目の煮込み、砂糖づけという、数日かかる手間ひまの賜物である。ポイントは、季節や収穫してからの経過時間で変わってくる芋の煮込み加減。これこそが一子相伝の伝統の技だ。

浩一社長に今後の展望を尋ねると、自社農園を市民に開放し、サツマイモ一株一株のオーナーになって栽培してもらうことで、芋や芋菓子をより身近に感じてもらう、そんな青写真を描いているという。



■ 大木製菓有限公司
代表取締役 大木 浩一
〒362-0059 上尾市平方1855
URL:<https://www.saikaan-ooki.com>
(武蔵野銀行 西上尾支店取引先)